

南アルプス市立小笠原小学校 第一回自己評価書

令和2年9月2日作成

校長： 飯久保 一男	記述者・職名： 佐野 紳二・教頭
<p>学校教育目標</p> <p>校 訓「あかるく かしく たくましく」</p> <p>教育目標「自分を大切にし、他者を大切にする」児童の育成</p> <p>具体目標 (1) 労をいとわず働く子 (2) 自分を明るく表現できる子 (3) 進んで学ぼうとする子 (4) 思いやりがあり、礼儀正しい子 (5) 健康でたくましい子</p>	
<p>本年度の学校経営理念と方針</p> <p>「喜んで登校し、満足して下校できる」明日が待たれる学校の創造</p> <p>①安全・安心な学校づくりの推進 ②教育の不易と流行の見定めと率先垂範による教育の推進 ③研究研修活動を活性化し、自ら学ぶ授業づくりの推進 ④楡形地区小中連携をとおして地域が一体となった教育の推進 ⑤学校評価システムによる学校経営の推進</p> <p>学校経営目標・具体的な取り組み</p> <p>真の「かっこよさ」を求める子ども</p> <p>①お互いを思いやる「かっこよさ」 学校教育目標「自分を大切にし、他者を大切にする」子どもの育成の意識化、共有化、日常化 小笠原流礼法の極意である「相手を大切に思う心」を「自然に表現できる」子どもの育成</p> <p>②お互いを高めあう「かっこよさ」 楽しくわかる授業と学力・教師力の向上 楽しい学校・学年・学級の創造</p> <p>③当たり前の「かっこよさ」 当たり前のことを積み重ねていくと、特別になる 基本的な生活習慣、学習習慣、行動習慣の定着 環境の整備</p>	
I 評価方法	
<p>児童、保護者、教職員の3者に対して、アンケート用紙により回答を得た。質問に対しての回答選択肢は基本的に4段階になっている。</p> <p>A：とても・よく～している B：だいたい～している C：あまり～していない D：～していない</p> <p>の4段階で、このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価である。AとBのどちらを選ぶか、CとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・性格・回答時点の状況等が関係するため、A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも、A・B合わせてのプラス傾向、C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が、全体的な傾向をつかみやすくなる。</p> <p>そこで、A・B・C・Dの選択肢を点数化し、A=4、B=3、C=2、D=1として集計し、回答者数で割って平均点数をもとめた。平均点数は次のような意味をもつ。</p>	

○全体にプラス評価（A・B）が多ければ、平均点は2.5点以上になり、4点に近づいていく。
 ○全体にマイナス評価（C・D）が多ければ、平均点は2.5未満になり、1点に近づいていく。
 なお、保護者のアンケートには回答の選択肢として E：わからない があるが、これは点数には含めていない。

Ⅱ 全体評価

○教職員の自己評価、児童アンケート、保護者アンケートのそれぞれの集計結果を見ると、いずれも昨年度と同様な傾向を示す評価であった。

- ・教職員の自己評価の結果は、32の質問項目に対し、すべての項目で評価の平均が3.0を上回る高い評価結果であった。
- ・児童アンケートの結果は、24の質問項目に対し、すべての項目で評価の平均が2.5以上のプラス評価であり、うち23の項目で評価の平均が3.0を上回る高い評価結果であった。
- ・保護者アンケートの結果は、20の評価項目のうち、17の項目で評価の平均が2.5以上のプラス評価だった。評価の平均が2.5を下回ったのは「ご家庭では、お子さんといっしょに本を読む時間を設けていますか。」「お子さんは、宿題の他にも家庭学習（塾や家庭教師は、除く）をしていますか。」「お子さんは、困ったことがあった時に相談などのできる友達がありますか。」の3項目だった。

以上のことから、小笠原小学校では学校経営方針に基づき、教育目標の実現に向けて、一人一人の教職員が保護者の理解と協力のもと、それぞれの職務を遂行してきたことにより、教育活動全般にわたって適切な指導が行われ、そのことが児童や保護者に肯定的に評価されていると考えられる。従って、本校の学校評価に係る総合的な評価は概ね良好な水準にあると言える。

しかしながら、一つ一つの結果に目を向けてみると、マイナス評価の項目や、プラス評価ではあるがポイントが低い項目が各調査で見られる。教職員、児童、保護者のそれぞれの調査について、以下の「Ⅲ アンケートごとの評価」で考察し、課題を明らかにしていきたい。

Ⅲ アンケートごとの評価

教職員の自己評価アンケートについて

教職員の回答項目中には、平均ポイントが2.5を下回るマイナス評価の項目はなかったが、プラス評価の中でも評価の比較的低い項目（平均ポイントが3.5以下の項目）が次の2つだった。

学習指導・生活指導④「知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力の育成に努めている」

3.28（前年比+0.04）

地域との連携②「保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報の収集に努めている」

3.44（前年比+0.02）

また、前年度と比較して評価のポイントが0.3以上低くなった項目が1つあった。

学校の特色②「授業参観日や学校開放日を保護者や地域に伝え、定期的実施している」

3.55（前年比-0.34）

【考察・改善策】

上記に挙げた3項目に共通した原因として考えられるのが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休校及び学校再開後の「学校の新しい生活様式」に沿った学校生活の見直しによる影響である。

「知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力の育成に努めている」については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う約3か月に及んだ臨時休校の影響で、学習の進度に遅れが生じることを危惧した職員が多く存在しており、学習を進めていくことを優先した結果、思考力・判断力・表現力の育成に十分に時間を取れなかったことや、児童相互のソーシャル・ディスタンスを確保するために、対話的な学習を取り

入れるのが難しいといった状況が原因となっていることが考えられる。今後、新しい生活様式に沿いながらいかにして「主体的・対話的で深い学び」を実現させていくかが大きな課題の一つである。

「保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報の収集に努めている」「授業参観日や学校開放日を保護者や地域に伝え、定期的実施している」の2項目についても、多くの人を学校に招いて授業参観や学校開放日を実施することが難しい現在の状況の中で、どのようにして学校の学習の様子を保護者や地域の方々に発信していくか、また、保護者や地域の方々からの声を学校の教育活動に反映させていくか、これまでとは違った方法を模索していく必要があると考えられる。ホームページや学校・学年・学級だよりなどを用いて学校生活の様子を積極的に発信していったり、連絡帳や電話連絡によって保護者との連絡を密にしたりするなどの手立てを用いていきたい。

児童アンケートについて

児童の回答項目中には、平均ポイントが2.5を下回るマイナス評価の項目はなかったが、プラス評価の中でも評価の比較的低い項目（平均ポイントが3.25未満の項目）が次の5つだった。

「宿題の他に、家庭で自主学習をしていますか」	2.88（前年比+0.06）
「友だちに考えや感想を話したり、またはクラスみんなに発表したりできますか」	3.10（前年比-0.01）
「困ったとき相談できる先生はいますか」	3.12（前年比+0.01）
「困ったとき相談できる友達はいますか」	3.18（前年比+0.04）
「家の人に、学校での出来事や授業や活動の様子を話しますか」	3.23（前年比-0.05）

【考察・改善策】

評価の低かった5項目は、すべて昨年度以前から評価が低い傾向が続いている。評価ポイントを比較しても、前年度から大きく変動している項目はなく、本校の継続した課題であると考えられる。

「宿題の他に、家庭で自主学習をしていますか」は全項目の中で最も評価が低く、唯一2点台だった。評価ポイントについて詳細に見ていくと、低学年よりも高学年で評価が低くなっていることが分かった。

（1,2年生：3.19, 3,4年生：2.88, 5,6年生：2.60）低学年では保護者が児童の家庭学習を丁寧に見ていたのが、児童の成長に伴い、保護者が家庭学習を児童の自主性に任せるようになることが大きく影響していると考えられるが、現在取り組んでいる家庭学習週間の取り組みを継続すること、高学年の児童が自主的に家庭学習に取り組めるよう、家庭学習の手引きの改善を図ることなどの取り組みを行っていきたい。

「友だちに考えや感想を話したり、またはクラスみんなに発表したりできますか」については、まずは小集団の中で、自分の考えを発信する経験を重ねていくことで評価の改善を図っていくことができると考える。1学期、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために少なくしてきた授業中の対話的な学び（ペアや小集団での学び合い活動）を、状況を見ながら授業の中により多く取り入れたり、児童に関わりのスキルやコツを身につけさせるために取り組んでいる「あやめっ子タイム」を実施したりすることで、児童の発言を促していきたい。また、「あやめっ子タイム」の取り組みの効果として、共感的な人間関係を育み児童の自尊感情を高めることも期待できる。「あやめっ子タイム」に取り組んでいくことで、「困ったときに相談できる友達」づくりを進めていくこともできるだろう。

「困ったときに相談できる先生はいますか」「困ったときに相談できる友達はいますか」「家の人に、学校での出来事や授業や活動の様子を話しますか」といった項目に対する評価ポイントが低いことから、自己開示がうまくできない児童の姿が浮かんでくる。授業の中での学び合いや「あやめっ子タイム」の取り組みとともに、受容的な集団作りに努めていくことで、これらの改善が図られるのではないかと考えられる。また、児童の一番身近にいる教師や保護者が、児童の話にしっかり耳を傾けることを意識していくことが大切だろう。

保護者アンケートについて

保護者の回答項目中、マイナス評価の項目は次の3項目だった。

- 「ご家庭では、お子さんといっしょに本を読む時間を設けていますか」 2. 09 (前年比-0. 13)
- 「お子さんは、宿題の他にも家庭学習をしていますか」 2. 40 (前年比-0. 10)
- 「お子さんは、困ったことがあった時に相談などのできる友達がいますか」 2. 42 (前年比-0. 09)

【考察・改善策】

「ご家庭では、お子さんといっしょに本を読む時間を設けていますか」は、ここ数年、保護者アンケートの中で最も評価が低くなっている。「家読」への取り組みは行っているものの、親子で読書をする時間はなかなかつけれないのが現状のようである。しかしながら、児童に読書の習慣を身に付けさせるためにも、今後も継続してPTA主催の親子読書や、朝読書、読書週間の取り組みなどを継続して行っていきたい。

「お子さんは、宿題の他にも家庭学習をしていますか」「お子さんは、困ったことがあった時に相談などのできる友達がいますか」の2項目は、児童アンケートでも評価の低かった項目である。

「家庭学習」については児童アンケートの項でも述べたように、家庭学習週間の取り組みを継続するとともに、保護者への周知や協力の要請にも力を入れていきたい。「困ったときに相談できる友達」についても、児童アンケートの項で述べたように、「あやめっ子タイム」や受容的な雰囲気のある学級集団作りに取り組んでいきたい。また、いずれの項目も保護者アンケートの評価ポイントが、児童アンケートの評価ポイントを下回っている。保護者が、学校での児童の様子が分からず、不安を感じているという側面もあるのかもしれない。各種通信やホームページを使って、学校生活の様子やこうした活動への取り組みを保護者に伝えていくことも大切だろう。

また、今回のアンケート調査では、マイナス評価はなかったが、プラス評価の中でも低いポイントの項目が2つあった。

- 「PTA活動に参加していますか」 2. 53 (前年比-0. 15)
- 「お子さんの教育で悩みがありますか」 2. 53 (前年比-0. 02)

【考察・改善策】

「PTA活動への参加」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年行っている活動が実施できないことが多く、評価が低くなるのはやむを得ない面もある。このような状況の中、どんなことがPTA活動としてできるか、今後も模索していきたい。

「お子さんの教育で悩みがありますか」では、悩みが「ある」と回答した保護者が49. 6%と、約半数の保護者が児童の教育のことで悩みがあることが分かった。過去のアンケート結果を見ても、毎年約半数近くの保護者が「児童の教育で悩みがある」と回答していることから、悩みのある保護者の数を減らすための方策を考えることより、どのようにして保護者の悩みに対応する相談体制を構築するかが大切だと考える。まずは、各学級において、保護者との情報交換を密にし、児童の様子について相互理解を図ることが大切である。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、普段の年よりも保護者に学校に来ていただく機会は少ないが、電話連絡や連絡帳を使って情報交換を行ったり、個別懇談等の機会を大切にしたりするなどして、保護者との連携に努めていきたい。普段の何気ない保護者との会話の中で、保護者の悩みを受け止めることも必要だと考える。

本校では養護教諭・特別支援コーディネーターを中心にSC（スクールカウンセラー）や市の子育て支援課、さまざまな相談機関や医療機関に繋いだり、連携して支援にあたりたりするシステムが整っている。これらを活用し保護者の悩みを軽くし、児童の健やかな発達につなげていきたい。

IV ま と め

アンケート調査の結果から、本校の教職員が学校長の示す学校経営理念と方針、学校経営目標を、日常の職務を遂行するための行動指針（具体的な目標）として意識し、日々の業務に使命感と責任を持って取り組んでいると考えられる。また、そうした教職員の姿勢が、児童が楽しく、充実した学校生活を送ることができることにつながっており、保護者からも一定の評価をいただいていると考えられる。

児童アンケート、保護者アンケートの結果を過去の評価結果と比較すると、いずれも同程度の評価であった。今年度も安定した学校運営がなされており、そのことが児童や保護者に評価されていると考えられる。しかしながら、児童アンケート、保護者アンケートの結果において評価の低かった項目は、いずれも前年度より前から低い傾向が継続しており、長期間にわたって本校の課題となっている部分であると考えられる。家庭学習の充実、困ったことを解決するためのピア・サポート体制の充実、親子読書の取り組みなど、長い間課題となっている項目については、新たな取り組み方法を模索していかなければならない時期に来ているのかもしれない。

学校は本来「学びの場」であり、やはり1時間1時間の授業の充実が、よりよい学校づくりの基盤となっていこう。学校長が本年度のグランドデザインの中で示す「教師は授業で勝負するという気迫を持った教師力」を更に伸ばしていくように一人一人が心がけていくとともに、「小笠原小学校全職員の英知を結集した学校力」を児童のよりよい成長のために発揮できるよう、保護者や地域住民の方々との連携を図りながら、協力して児童の教育を行っていききたい。